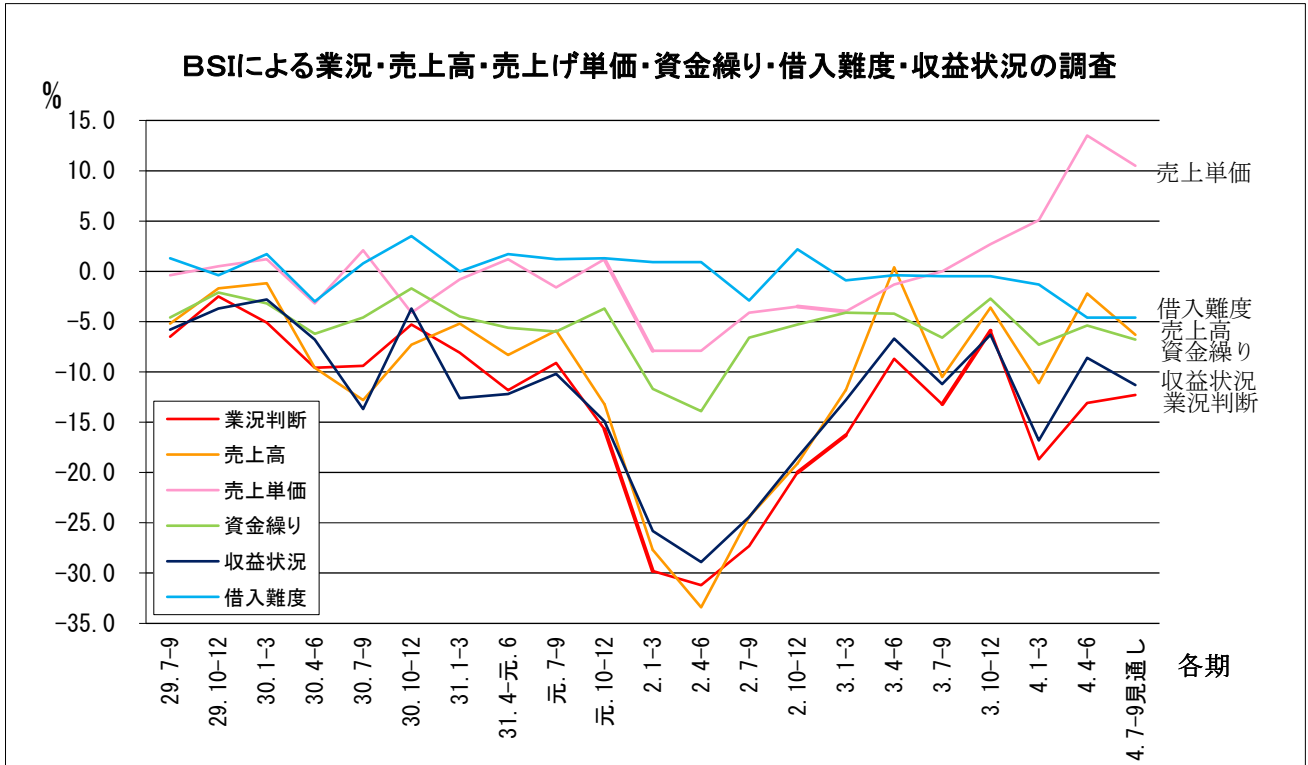


# 中小企業景況調査結果報告書

令和4年4～6月期(令和4年7～9月期予測)

—鳥取県下4商工会議所の調査より—



先期比\*( )内は令和4年1～3月期の数字

	回収数	売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断
全産業合計	113	-2.2 (-11.1)	13.5 (5.1)	-5.4 (-7.3)	-4.6 (-1.3)	-8.6 (-16.8)	-6.8 (-18.7)
製造業	34	2.9 (-7.4)	11.8 (10.3)	-10.3 (-13.3)	-5.9 (-5.9)	-5.9 (-14.3)	-5.9 (-16.2)
非製造業	79	-4.4 (-12.7)	14.3 (3.0)	-3.3 (-4.9)	-4.0 (0.6)	-9.8 (-17.9)	-7.3 (-19.7)
(建設業)	22	-16.0 (-8.7)	-4.8 (-6.6)	4.6 (4.6)	2.4 (6.8)	-13.7 (-13.1)	-7.2 (-15.3)
(卸売業)	18	8.4 (-7.9)	27.8 (21.1)	0.0 (0.0)	0.0 (2.7)	-13.9 (-13.2)	-20.6 (-21.1)
(小売業)	12	-14.3 (-31.0)	21.4 (4.6)	-12.5 (-18.2)	-16.7 (-6.9)	-16.7 (-31.8)	-9.6 (-31.8)
(サービス業)	18	8.4 (-2.5)	14.7 (-5.0)	-5.9 (-5.3)	0.0 (0.0)	9.4 (-12.5)	8.8 (-10.0)

来期(令和4年7～9月期)見通し\*( )内は(令和4年4～6月期)の見通し

	回収数	売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断
全産業合計	113	-6.3 (-1.8)	10.5 (8.6)	-6.8 (-7.8)	-4.6 (-3.1)	-11.3 (-12.5)	-12.3 (-13.1)
製造業	34	4.5 (4.5)	20.6 (13.2)	-11.8 (-13.3)	-10.3 (-5.9)	-7.4 (-8.8)	-10.3 (-10.6)
非製造業	79	-10.9 (-4.3)	5.9 (6.7)	-4.6 (-5.6)	-2.0 (-1.9)	-13.0 (-14.0)	-13.2 (-14.0)
(建設業)	22	-13.7 (-6.8)	-4.8 (0.0)	0.0 (2.3)	2.4 (0.0)	-18.2 (-16.0)	-11.9 (-11.4)
(卸売業)	18	8.9 (-2.7)	17.7 (21.1)	-2.8 (-2.7)	0.0 (2.7)	-5.6 (-13.2)	-11.8 (-15.8)
(小売業)	12	-31.0 (-11.9)	9.6 (6.8)	-15.0 (-15.9)	-7.1 (-6.8)	-23.8 (-20.5)	-23.8 (-26.2)
(サービス業)	18	-2.8 (5.3)	0.0 (0.0)	-5.6 (-5.6)	-3.0 (-3.0)	-5.3 (-5.3)	-5.3 (-5.3)

\*BSI=(上昇・増加-減少・下降)×1/2 (但し、「上昇・増加」+「横ばい」+「減少・下降」=100)  
 経営者の業況に対するマインドを反映するもの。(0%は「上昇・増加」と「減少・下降」が同数。「+」は上昇・増加、「-」は減少・下降)

## ■業況(グラフ参照)は……

今期(令和4年4～6月期)は、新型コロナウイルスの一時的な沈静化が見られ、移動制限の緩和や大型連休による観光需要から県内経済は全体的に回復基調を示し、全産業合計の業況判断はマイナス6.8と前期(令和4年1～3月期)から11.9ポイント改善しました。

来期(令和4年7～9月期)見通しは資源・資材価格の高止まりに加え、新型コロナウイルス感染の再拡大が重なり、一転して業況の悪化が懸念されます。

### [今期の動向]

全産業合計では借入難度を除く項目が前期(令和4年1～3月期)から改善しており、新型コロナウイルスの沈静化に伴う移動制限の緩和に加え、大型連休での人流回復および消費活動の活発化により業況の改善が見られる結果となりました。

中でも業況判断で前期(令和4年1～3月期)と比べて小売業 22.2ポイント、サービス業 18.8ポイントと大きく改善。飲食・宿泊関連や観光サービス業で自治体の需要喚起策などの効果によって大幅な業況改善につながったと推察されます。

### [来期(令和4年7～9月期)の見通し]

全産業合計の来期(令和4年7～9月期)売上高がマイナス6.3と前期から4.5ポイント悪化しており、特に非製造業で先行きが不透明な結果となっています。

製造業は、上海のロックダウンなどで遅れていた生産活動が再開。入荷遅延も解消され売り上げの回復が見込まれます。一方、非製造業の中でも小売・サービス業を中心に、物価高に加えて新型コロナウイルスの感染再拡大による消費マインドの低下が懸念されます。

## ■直面している経営上の問題点

- 1位: 原材料・仕入れ価格上昇(26.30%)
- 2位: 消費・需要の停滞(13.50%)
- 3位: 経費の増加(12.20%)
- 4位: 売上・受注の減少(11.80%)
- 5位: 人手不足(9.90%)

長期化しているウクライナ問題や円安の影響から、原材料価格やエネルギー価格は高止まりしており、企業収益を圧迫する状況が続いています。

記述式の回答でも「増加するコストを販売価格に転嫁できていない」(小売業・卸売業)といった回答が多く、仕入れ価格の上昇に価格転嫁が追いついていない状況が見られます。

このほか、コストの増加に加えて「新型コロナウイルスの影響から抜け出せず、団体客が少なく客単価が上がらない」(宿泊業)と売り上げの減少を嘆く声も聞かれるなど、依然として企業を取り巻く環境は厳しい状況となっています。

## ■各社からのその他の問題点(西部企業の回答より)

- ・原材料の高騰で、利益率が低下し、製品価格を上げて頂くよう得意先とは交渉済みです。現在は、価格高騰より原材料の入荷が滞っているものがあり、そちらの問題の方が切実になりつつあります。(製造業)
- ・原油価格の高騰に伴うエネルギーコストの上昇が利益を圧迫している。(製造業)
- ・食材仕入単価が低下せず、その他消耗品等の仕入対価が上昇しており、利益を圧迫しています。(サービス業)
- ・仕入価格が 8～10%上昇。発注しても完成車は何ヶ月も先の納車。そして入荷の日時がはっきり分からない昨今です。(小売業)
- ・「新型コロナウイルス感染症」「原油価格・物価高騰」の影響大いに有り！(製造業)
- ・原油・物価高騰の波により、4月1日頃に第1派の5%～10%の値上見積が届き、8月1日頃には第2波の5%～10%の値上見積が届いています。どこまで上がるのでしょうか。(製造業)